

<へき地教育>

# 自己を見つめ、自己の向上を図る心を育てる道徳の授業の工夫

— 「価値の明確化」方式を取り入れた合同学習(第1・2・3学年)を通して—

本部町立上本部中学校教諭 高木 英行

## I テーマ設定の理由

今日、学校や児童生徒に関係したいじめや不登校、基本的な生活習慣の欠如が、大きな社会問題になっている。これらの問題に対して、学校が取るべき方策について新学習指導要領に大きく取りあげられ、学校教育は、「第3の大きな改革」の時期を迎えている。

現在の学校に見られる児童生徒の問題は、「生きる力」「豊かな心の育成」に大きく関係していると新学習指導要領で指摘され、道徳教育の充実が叫ばれている。一方、この「生きる力」「豊かな心の育成」については、全国へき地教育研究連盟の研究の中でも取り上げられており、へき地の道徳教育の研究実践が、今日の教育の問題解決に寄与できると考える。

へき地教育では、少人数の特性から、常に一人一人の生徒を見つめ、生徒の個性を考え、生徒に体験する場を与え、地域を大切に教育を行ってきている。また、へき地校は生徒が素直で明るく、仲が良いと言われている。しかし、少人数のため、社会性が身につけにくいという短所がある。この社会性の不足は、交流学习によって改善しようと思われてきたが、日頃からの授業方法の工夫によっても補

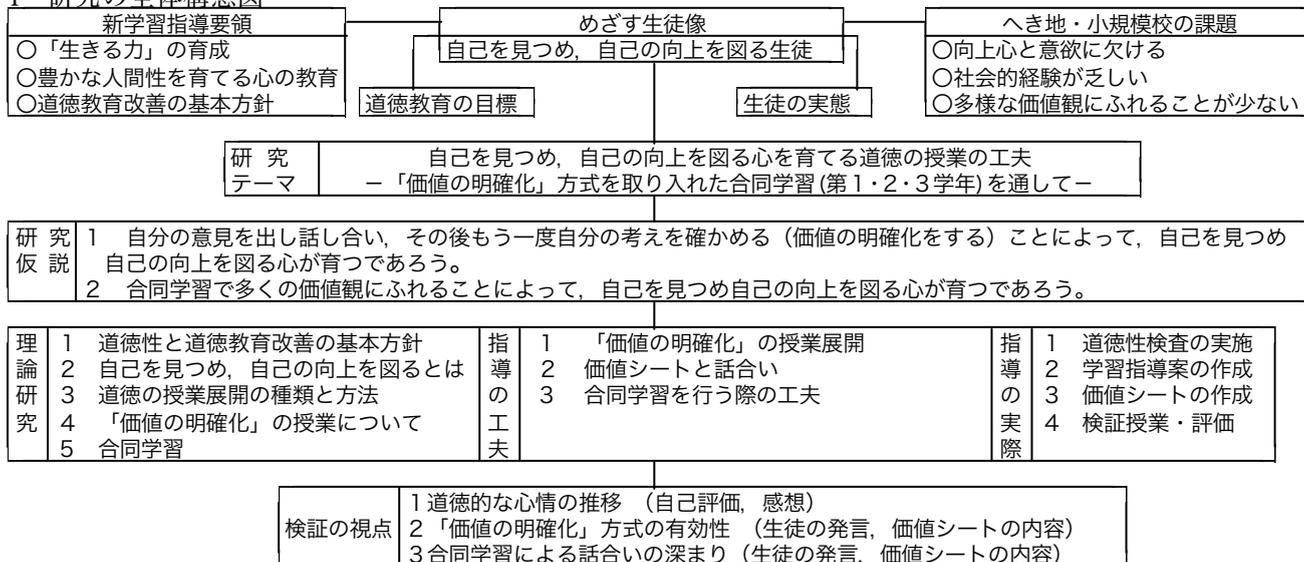
う必要がある。社会性とは、自分自身を見つめ自分の考えを持つことができ、他者との関わりで自分と他者とのコミュニケーションを適切に行えることと考えることができる。そこで、へき地校の道徳の授業において、まず自己を見つめる能力の育成に重点をおき指導すれば、社会性の改善の第一歩になるのではないかと考えた。それには、今まで少人数学級で行われていた授業を合同学習にし、多くの価値観にふれる機会を増やすことである。

また、へき地校の生徒は向上心と意欲に乏しいとも言われ、自己実現に向け努力する面に欠けていると指摘されている。これについては、「価値の明確化」という授業展開によって解決していきたい。この授業では、生徒が自分自身をしっかりと見つめ、価値のシートに自分の考えを書き、話し合うことで自分自身の価値を高めることが期待できる。へき地校の生徒の長所を生かしながら、また短所を補い生徒の道徳性を向上させていきたい。

この合同学習と「価値の明確化」方式の授業によって、生徒一人一人が、自分自身を見つめ、自己の向上を図る心を育てられるようになることを考え、本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究の全体構想図



## 2 理論研究

### (1) 道徳性と道徳の時間

道徳性について新学習指導要領には次のように示されている。

- ・人間としての本来的なあり方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性
- ・人格の基盤をなすもの
- ・人間らしいよさ
- ・道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたもの

また、道徳性を培う道徳の時間を元校長金城信弘氏は次のようにとらえている。

- ① よりよい生き方に照らして、これまでの自分を見つめてみる時間
- ② わかっていることをわからせる時間
- ③ 自らの生き方にこだわりをもたせる時間
- ④ 一人一人の「豊かな体験」を語りあう時間

この考え方は「価値の明確化」の考え方に大変近いものである。

### (2) 道徳教育改善の基本方針

教育課程審議会の答申によると次のような道徳教育改善の提案がなされている。

- ・体験活動を生かした心に響く道徳教育の実施
- ・家庭や地域の人々の協力による道徳教育の充実
- ・未来へ向けて自らが課題に取り組み、共に考える道徳教育の推進

「価値の明確化」は自分自身で自己を見つめる過程があり、グループの話合いがあるので第3点目の改善をねらっている。

### (3) 自己を見つめ自己の向上を図る心

学習指導要領では、「自己を見つめ自己の向上を図る心（向上心）」は、主として自分自身に関することで内容項目の1- (5)にあたる。自分自身を静かに見つめ自己理解を深め自分なりの生き方を見つけることである。自己の欠点の追求に偏ることなく、自己の優れている面の発見に努め、さらに伸ばしていこうとする姿勢が大切である。

検証授業では、「これからの自分に大切なこと」を取り上げ、グループでの話し合いの過程で自己を見つめ自己の向上を図る心を育てたい。

特にへき地校では、進路指導面において、高校進学後の進路変更が多いことが問題になっているため、この内容の主体的学習は重要である。

### (4) 道徳の授業展開の種類と方法

最近注目されている道徳の授業展開の種類と方法には次のようなものがある。

- 道徳の時間の新しい授業展開法について
- 価値の明確化（諸富祥彦）○モラルジレンマ（荒木紀幸）
- 問題解決的学習（荻原武雄）○構造化方式（金井肇）
- 構成的グループエンカウンター（国分康孝）○ロールプレイング○価値の類型化○再現構成法

道徳教育の新しい構築について

○総合単元的な道徳○ケア理論（林康成）○統合的プログラム（伊藤啓一）

### (5) 「価値の明確化」の授業

「価値の明確化」の授業は、ワークシートを利用してひとりで自分を見つめ考えることを大切にしているため、自分自身に関する内容の扱う上でふさわしい。また、へき地校においては少人数のため討論では道徳性を深めにくいので適した方法であると考えられる。

この方法はアメリカのラス、ハーミン、シモンら（著『価値と教授』1978）によって展開された道徳教育である。この授業には次の2つのタイプがある。本研究は、A型の授業で行う。

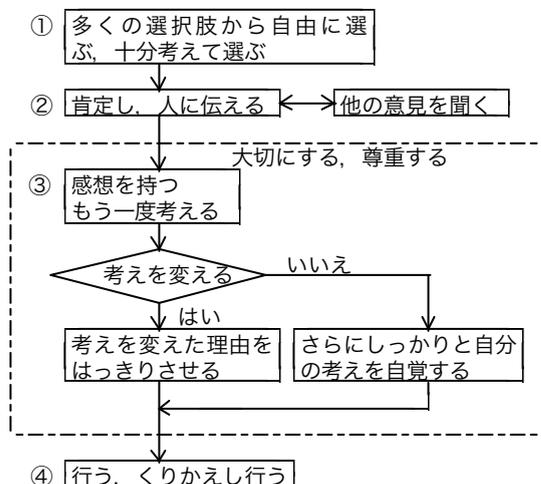
A型	「自分づくり」の力を育むタイプ。自立した一人の人間として、自分のことは自分で決め、その責任は自分でとるという自立と責任の感覚を育てていく。
B型	自分で問題を発見し解決する力を育むタイプ。問題発見と問題解決の力、問題場面に直面した時の意志決定力を身につけさせる。

「価値の明確化」は、価値の側面に焦点を当てた自己発見・自己開発の方法である。生徒の内的な価値選択のプロセスを促進するのがねらいで、自分にとってより真なる確かな価値を追求させる。

「価値の明確化」の基本的な考え方は次のとおりである。

- ① 生徒の生活上の問題に注意を向ける。
- ② 生徒の価値の表現をそのまま受け入れ、しかもそのことを伝え返していく。
- ③ さまざまな選択や行為に対してもっとよく考えるように内省的思考を促す。
- ④ 自分は自己指導能力を発揮することができるという自信・自己信頼感を育む。

この考えを取り入れた授業の流れを次に示した。



価値を明確化する手法として、ラスらにより、対話による方法と書くことによる方法が考案されている。対話による方法は生徒の発言や行動に対して教師の応答により行い、「明確化の応答」と呼ばれる(表1)。書くことによる方法は「価値のシート」と呼ばれるワークシートによって行われる。

表1 明確化の応答例

1	これはあなたが大切にしているものですか。
2	あなたはそれを喜んでいますか。
3	そのとき、あなたはどのように感じていましたか。
4	いろいろ考えてから、それを選びましたか。
5	ずっとこんなふう感じていたのですか。
6	自分でそれを選びましたか。
7	その考えについて実際に何かしていますか。
8	その考えについて例をあげられますか。
9	その言葉の意味をくわしく説明してください。
10	その考えの結果どんな良いことがありますか。
11	あなたは～と言っているのですね。
12	その考え(行動)についてじっくりと考えましたか。
13	その考えのすばらしいところはどこですか。
14	あなたは他のみんなもそう考えてほしいですか。
15	わたしはあなたの考えに対してどんなお手伝いができますか。
16	あなたはこの考えをよく実行していますか。
17	これからも同じ考えを持ち続けますか。
18	それが正しいとどのようにして判断しましたか。
19	それを価値があると思っていますか。
20	それを外国の人や昔の人も正しいと思っていましたか。

また、この考えに基づいた「価値の明確化」方式の道徳授業A型のモデルパターンを表2に示した。この授業は「自分づくり」を支援する授業とも言われる。心理的なエクササイズを行って自分や自分の価値について気づきを高めていくこともあるが、基本は、まず価値のシートを使って、じっくり自分自身を見つめさせる。次に小グループで話し合い、その後再び自分で考えるという授業展開である。ここでの話し合いは、自分の意見は出さずに話し手の考えを聴いて受容するため「聴きあい」と呼ばれる。この方式は、諸富祥彦により考案され「日本の小・中学校において最も無理なく実践できるやり方である。」と紹介されている。

表2 「価値の明確化」授業A型のモデルパターン

導 入	資料(写真、絵、統計的資料、読み物資料など)を提示して、生徒の思考を刺激する。
展 開 I	ひとりですっきりと「価値のシート」に取り組ませる。生徒の自問自答を刺激して内的な価値プロセスを促進し、自分や自分の価値について気づきを深める。(複数の選択肢から自由に自分の価値を選び理由を書く)
展 開 II	小グループでの「聴きあい」活動。意見を闘わせるのではなく、それぞれの考えを認めあい、理解しあうことを目的とする。「質問タイム」をそれぞれの生徒の発表の後に設けて、相互理解を深める。グループでの結論は出さずに、それぞれが選択した価値を認めるようにする。

展 開 III	小グループで出た意見をクラス全体で共有する(シェアリング)。多様な考えに直面させることで思考を刺激し、視点の幅を広げる。
展 開 IV	もう一度、ひとりですっきりと「価値のシート」に取り組ませる。自分が選んだ価値とそれを選んだ理由を改めて自己吟味させる。
終 末	今日の授業で「気づいたこと」「感じたこと」「学んだこと」「新たに知ったこと」「自分がこれからしようと思うこと」などを「ふりかえりシート」に記入させる。何人かに発表させる。

### (6) 価値のシートと使い方

価値のシートには、前半に生徒の思考活動を刺激する質問や文章が書かれていて、後半に価値の明確化の過程をたどらせる一連の文章が記されている。まず生徒は、十分に時間をかけて自分自身でこれらの質問に答え、シートを完成させる。よく練られた価値のシートには、それに答えていくだけで自ずと自己理解を深めていける工夫がされている。

次に、それぞれの考えを価値のシートをもとに発表させ、質問タイムを設ける(一人の持ち時間2分、質問タイム2分を目安とし、教師は時間を細かく区切って合図し進行する)。討論になったり、相手を傷つける質問はしてはならないことをあらかじめ生徒に注意しておく。

グループでの話し合いの後、クラス全体の考えを出し合い、その考えを聞いた上で、もう一度一人で価値のシートに取り組む。前の考えと変わった人は、自分の考えがどう変わったか、またその理由を書く。考えが変わらなかった人も、改めて自分の考えとその理由を問い確かめていく。

### (7) 合同学習の原理

へき地・小規模・複式学級を有する学校で従来から行われている学習方法で、一つの学校で異学年集団を編成する学習である。学級の人数が少ないために、思考を磨き合う機会が少なくなるため、他の学年と合同して学習の場を設定する。同学年の少人数集団より、合同学習では個性や能力が多様になる。そのため、違った意見を聞き、技術を学ぶ機会がふえる。また、上学年は下学年の補助をする中で学習への意欲を高めることができる。他に「助け合う」「信頼し合う」という豊かな心を育むこともできる。

## III 指導の実際

1 検証授業対象 N 中学校1・2・3 学年  
1 学年7名 2 学年5名 3 学年6名 計18名

## 2 道徳性検査の実施

へき地校の生徒の課題と言われている向上心について実態を知るために、アンケート（自作）を行った。この結果から自分自身に関することが弱いことがわかった（図1）。

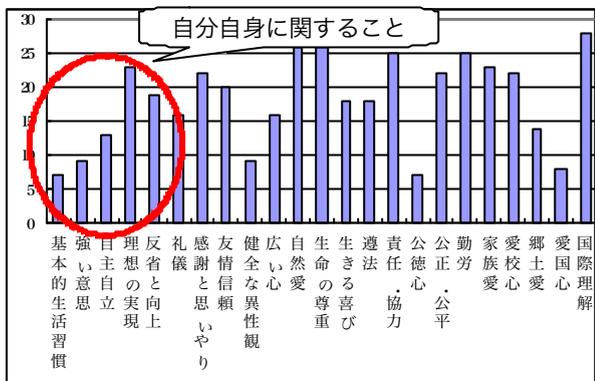


図1 N中学校の道徳性（自作アンケートから）またMORAL-IIの検査を実施した結果、下表のように向上心の実践意欲が課題であることがわかった。

自分なりの目標を決めて、その実現のために努力している。	7人
自分の将来について考えたことがない。こうしたいと思うが実行できない。	11人

## 3 学習指導案の作成

(1) 主題名 自己を見つめ、自己の向上を図る  
内容項目1-(5)

(2) 主題のねらい 自分を他者や社会とのかかわりの中でとらえ、自らの在り方を見つめようとする姿勢を育てる。

(3) 検証計画

「価値の明確化」の授業を初めて導入する際は、

⑤ 本時の展開

	生徒の活動と発問	ねらいにせまる手だて	期待される生徒の姿
導入 5分	1 前時の活動を振り返る。 2 本時のねらい「これからの自分のことを考える」について聞く。	○前時の「価値のシート」から、生徒の考えを紹介する。 ○本時は将来のことについて考えることを伝える。	
展開 10分	3 これからの自分に大切なことはどんなことか考える。 ○価値のシートの①から⑧の項目の中から、あなたがこれから生活していくために大切にしたいと思うことを三つ選びましょう。	○個人でじっくり考えさせることを通して、一人一人の価値づけの過程を大切にさせる。 ○選び終わったら、理由を考えさせ、友達に自分の考えを説明できるようにさせる。 ○自分の考えと合うものがなければ⑧その他を選択し、新しいものを加えてもよいし、ある部分を変えてもよいと補足する。	○何が自分にとって大切かを考えることができる。
展開 15分	4 グループで意見を聴きあい、考えを深め、視点の幅を広げる。 ○グループ内で、選択したものについて話し合ひましょう。	○質問タイムを設け、グループの一人一人の意見を大切にできるように助言する。 ○班のリーダーを司会とし、全員に発言の機会を与え、話しを聴く姿勢を大切にさせる。 ○意見がうまく言えない生徒に対しては教師が助言する。 ○グループ内で、選択した項目とその理由を明らかにさせながら話し合ひを進めていさせる。 ○考えの同じ点や違う点に注目させて、話し合ひを進めさせる。	○自分の考えとグループの人の考えの同じ点と違う点を考えることができる。また、新しい考え方について受け入れることができる。 (例) ・ここは私と同じけどあとは違うな。 ・私と全然違うな。

小グループの話合いができるようにするための人間関係づくりが大切である。また聴きあいの心構えをつくるようにするための質問の仕方とマナーを守らせる必要がある。そのため3回の授業を計画した。

回	資料名	学習内容・ねらい
1	みんなちがってみんないい	自分のいいところをお互いに話しながら自尊感情を高め、他人の良い面も認め合う気持ちをもつ。(グループでの話し合い活動に慣れ、発表者が安心して進んで意見を言えるようにするため、始めにゲームを取り入れる。)
2	自分らしさがでるのはどんなとき	自分らしさがでるのはどんなときかを考える中で、自分の特徴や長所に気づき、それを伸ばそうとする気持ちをもつ。
3	これからの自分に大切なこと(本時)	自分自身の「これから大切にしたいこと」を明らかにしていき、それを実行しようとする気持ちをもつ。

(4) 検証授業

① 主題名 向上心 1-(5)

② 資料

価値のシート「これからの自分に大切なこと」

③ ねらい 自分自身の「これから大切にしたいこと」を考えさせ、それを実践しようとする心情を育てる。

④ 授業仮説

ア 少人数の授業において、価値のシートを使って、自分の意見を出し話し合うこと（価値の明確化）で、自分の生活信条を決め実践意欲を持つことができるであろう。

イ 合同学習における他学年の生徒や他校の生徒の考え方にふれることで、へき地校の生徒が自分自身が決めた生活信条を、もう一度よく考えることができるであろう。

展開 III 10分	5 グループごとの話し合いをもとに全体で話し合う。 6 他のグループで話し合った内容を聞く。他校の生徒の考えを紹介する。 ○気がついたことを発表しましょう。	○グループを巡視してよい意見や考え、感想の発表をうながす。	・そういう考えもあったんだ。 ○一人一人が違った考えを持っていることを認め合う。 (例) ・みんないろいろなことを考えているんだ。 ・このグループのこの考えはいいな。
展開 IV 5分	7 自分の選んだ価値と選んだ理由を再吟味する。 ○もう一度自分の考えを選びましょう。(順番を変えるでもよい)	○理由を考えさせながら、自分の考えを落ち着いて書かせる。 ○自分の考えを変える場合は、影響をあたえた意見をはっきりさせるように助言する。	○自分の考えをじっくり見直すことができる。 ・(例) こうした理由で自分の考えは変わりました。
終末 5分	8 今日の学習を通してわかったこと、感じたことを書く。 9 歌を紹介する。 秋葉てる代作詞大熊崇子作曲「旅立つ日に」教芸小6	○今までの自分に対しても振り返らせ、今後の自分のあり方について書かせる。 ○実践への意欲化を図る。 「その考えについて何かできることがありますか」 「まわりの人が何か協力すればできるようになりますか」	○多くの価値観にふれることによって、自分の向上を見直し、自己の向上を図る。 ・(例) これからの自分に大切なことは～だな。これからは、～という。

(5) 指導の工夫

価値のシート「これからの自分に大切なこと」(表3)の選択肢①～⑦は中学生の時期に親や教師、先輩から言われることがあり、また生徒は自分でも実感していることでもある。これらの言葉を自分にあ

てはめて考え選択させていく過程で、自分が大切にしている価値をはっきりさせ、実践していく心情を育てたい。また小グループでの聴きあい活動を進行させるため「聴きあいの手引き」「司会の手引き」を表4、表5のように作成し活用した。

表3 「価値のシート」

これからの自分に大切なことは	氏名 ( )
1. あなたがこれから生活していくために大切にしたいと思うものを3つ選びましょう。	
①失敗したことを生かす	④まわりの人に好かれる
②最後まであきらめずにやる	⑤目標を持つ
③他人のせいにならない	⑥自信を持つ
⑦自分の考えをはっきり言う	⑧その他

順位	項目	理由
1		
2		

➔

項目	理由

2. 自分が選んだことについて、これから何かできることは? すでに行っていることは?

表4 聴きあいの手引き

表5 司会の手引き

友だちの考えを理解するため、そして自分の考えをより深く理解するために
質問 「～についてもう少し詳しく話してください」 「～というのは、たとえばどういうことですか」 「～についてはどう思いますか」 「～と考えているのは、どうしてですか」
確認 「○○さんは、～と思っているわけですね」 「○○さんの言いたいことは、～ということですか」
感想 「○○さんの～というところがいいと思いました」 「○○さんが～と言ったことに、なるほどと思いました」

○これから、～について自分の考えを発表してください。時間は一人3分です。 ○はじめにAさんお願いします。(発表) はい、終わりです。では質問タイムにうつります。(B, C, Dさんの質問) ○つぎにBさん……(発表)(質問) ○つぎにCさん……(発表)(質問) ○最後にDさん(自分) …(発表)(質問)
---

(6) 仮説の検証

3年Y君の価値観の高まりについて検討した。最初個人で次のように大切にしたいことを選んだ。

大切にしたいこと	理由
①失敗したことを生かす	忘れ物が多いので、先生に怒られるので忘れ物をなくしたい。
⑤目標を持つ	夢があるので目標をたてて勉強したい。
⑦自分の考えをはっきり言う	人に遠慮して言えないから言えるようにしたい。

今までの2回の授業で学級とグループに信頼関係が育っていたためY君は素直に考えたことを記入していた。まずグループの聴きあいで、O君の発表を聴いてよい考えと思った。

O君の発表	⑤目標を持つ	目標をもたないで勉強などをしていても頑張るぞという気持ちがわいてこないから。
-------	--------	--

聴きあい活動の指示どおりY君はうなずきながら聴いていた。次にY君が発表した。その後、Y君に

次の質問があった。

- 1 高校に入って家庭学習や復習をちゃんとやろうと思っているのですか？  
2 夢のためと言いましたがどんな目標ですか？

質問1には「はい」と答えたが、質問2には答えられなかった。しかしこの質問は、助言として働き、⑤「目標をもつ」の考えをはっきりさせたと思われる。次に全体のシェアリングの場で、グループのよい考えとしてY君が⑤を発表したところ、皆から拍手や感嘆の声があがった。さらに授業の感想として他のグループからもY君を称賛する発表があった。

Y君の「自分の夢をかなえるために目標を持つ」はよい考えだと思いました。

これによりY君は自信を持った表情になり、自分の考えを「①失敗したことを生かす」から「⑤目標を持つ」に変えた。そして価値のシートの「自分がこれから何かできることは」に意欲的に記入した。

僕は医者という大きい夢をもっているので高校に入ったら、中学でなまけた分、いっしょうけんめい勉強し、高校の授業の復習だけでなく、大学へ行くための勉強など自分で行うようにしたいです。

以上のように、Y君が友達の考えに触れ、友達から受容され質問を受ける過程で価値を高めていった様子がわかった。生徒全体を見ても同様に価値観が高められていた。それは次のように「すでに行っていること、何かできること」の記入から判断できた。

○学習、生活面での計画をしっかりとて、目標が達成できるようにノートに結果を記録している。

○部活動で自信を持つ。自信を持って美化活動をしています。

自己評価と価値のシートの記入は次のとおり。

評価	できた	少しできた	できなかった
自己評価・価値のシート			
①自分について考えることができましたか。	17	1	0
(価)理由を書けたか。	17	0	1
②友達に自分の考えを言えましたか。	12	6	0
③友達の考えのよいところに気づきましたか。	15	3	0
(価)もう一度考えたか。	自覚 5	考えを 変えた 9	考えを深 めていな い 4
(価)実践への意欲が見られたか。	意欲が 強い 14	意欲が ある 4	意欲がな い 0
④何かできることを考えられましたか。	11	7	0

「これからの自分に大切なこと」を18人全員が考えることができ、それについて考えを深め実践しようとする心情を持つことを14人が達成できたと判断<主な参考文献>

七條正典／横山利弘 2000 『新中学校教育課程講座<道徳>』 ぎょうせい

諸富祥彦 1999 『道徳授業の革新－「価値の明確化」で生きる力を育てる』 明治図書

できる。また14人の生徒は自分の考えを見直していた(自覚できた5人、考えを変えた9人)。

次に、合同学習によって多くの価値観に触れることについては、最初に生徒全体が選んだ項目は次のとおりであった(数字は人数)。

①失敗したことを生かす	7	⑤目標を持つ	9
②最後まであきらめずにやる	7	⑥自信を持つ	2
③他人のせいにならない	3	⑦自分の考えをはっきり言う	6
④まわりの人に好かれる	0	⑧その他	2

合同学習によってほとんどの項目が選択され、話し合いの内容が幅広く広がっていた。そのため担任教師(2年)の感想にも生徒の変容について記入されていた。

2年生は今までおとなしすぎて、意見交流があまり行えなかった。価値のシートのおかげで話し合いができ発表できるようになった。生徒も満足していた。活気があってよかった。

また、卒業生と他校の生徒の考えを提示したときには全員が関心を示し注目していたので効果があったと言える。

生徒の感想から

自分に大切なことがだいたいわかった	5人
楽しかった	5人
友達のこともわかった	4人
自分の考えが言えた	3人
自分のことを考えることができてよかった	2人
いい勉強になった	1人
発表することがむずかしくなくなった	1人
(複数記入のため合計は18以上になる)	

## IV まとめと今後の課題

### 1 成果

(1) 生徒は自己を見つめ、自分の考えを持ち、話し合うことで、自分のことを肯定的に見られるようになり、自分自身の価値を大切に、それを実践しようとする意欲を持つことができた。

(2) 合同学習によって主体的に話し合い、互いの多様な考えにふれ、友達を新たに理解することができ、自分の価値を高められた。

### 2 課題

(1) 発表者に対して受容的に聴き、発表者がさらに詳しく話せるように、司会者とグループの指導および質問のしかたを工夫する。

(2) さらに多様な考えにふれるよう地域人材や他校の生徒の考えを有効に活用する工夫が必要である。